

TM ニュース

TM ミーティング参加生徒用情報 6号 2017. 1. 31

TMミーティング開催

1月21日(土)午後1時30分から生物講義室でTMミーティングを行いました。はじめに、TM担当者から、2月と3月のスケジュール説明がありました。引き続き、東京医科歯科大学循環器内科教授の磯部 光章先生(S46)のご講演がありました。当日のご講演の様子をお伝えします。なお、磯部先生のホームページアドレス、ならびに、学生向けに磯部先生が書かれた新書も紹介します。戸山高校の大先輩です。人生モデルとしてください。



磯部 光章 先生

磯部先生のホームページアドレス

http://www.tmd.ac.jp/med/med3/cvm/main/a06_staff/profile/isobe_m.html

磯部先生の新書

<http://shinsho.shueisha.co.jp/kikan/0593-i/index.html>

● 磯部光章先生のご講演について

1月21日(土)のTMミーティングは、東京医科歯科大学 磯部光章教授(S46)による講演でした。テーマは『医学部の扉の向こうに見えるもの ～医療はアート・医学は知～』です。

磯部教授は、TM生徒に対して医師という職業の素晴らしさを熱く語っていただきました。自分の職業に対して誇りをもって取り組む姿勢は、TM生徒の皆さんが現在の学校生活の様々な活動の中で、ぜひ身につけてもらいたいことです。講演の中で、磯部教授から「夢を実現させてください」というメッセージがありました。医学部へ進学するための取り組みは大変ですが、その取り組みから逃げることはできません。つらいときこそ初心を思い出して、自分がやらなくてはならないことにしっかり取り組んでもらいたいと思います。磯部教授による講演は、TM生徒の皆さんの心に響いたはずです。夢の実現につなげてください。

最後になりますが、磯部教授の講演は、職業の異なる私にとっても大変勉強になりました。ありがとうございました。
TM担当 森泉真也



生物講義室でのご講演の様子



同じく 生物講義室の様子

●センター試験医学部医学科動向分析

ベネッセ・駿台が提供しているデータネット2017を見てみました。PC環境が整っている人は、データネット2017を自分自身で検索してみてください。

難関大学動向の一番下に、全国国公立大学医学部医学科の欄があります。その動向データをダウンロードすると、全国の国公立大学の医学部医学科を希望している受験生のセンター得点率の傾向が確認できます。データネットから見る医学部医学科への志望者数の傾向は、昨年度とほぼ同じ程度となっています。したがって、センター試験結果から2次試験を出願する場合、ほぼ昨年と同様の受験者層が各大学を出願すると考えることができます。一部の大学では、受験者数の増加、減少が、センター結果の第一選抜通過ライン(2次試験を受けるためのセンター得点率や倍率による選考があります)の変化に連動して現れています。多くは、事前の入学試験方法や倍率による第一通過ラインの変更が引き金になっています。自分が将来受験する大学の入試情報は最新のものを見ておくことが大切です。

とは言っても、医学部医学科の合格を高めるためには、

やはりセンター試験では、90%～85%の得点率が求められます。まずは、センターで落とさないという対策が絶対に必要です。そのためには、毎日の授業をその時間で完全理解という気持ち、授業が勝負だと思って大切に出席してください。また、教科書等の基礎問題、章末問題を確実にやりきることや一定の問題集を何度も繰り返し解くことと。模擬試験や定期試験であやふやで正解してしまった問題とミスをした問題を繰り返し解いて、自分のものにする。

地道ですが、自分の苦手な点や穴をきちんと埋め、基礎基本を万全に行きましょう。

TM 担当 押尾 勲



小論文講座 4

国語科 横堀 利明

作文とは何か？誤解を恐れずに言えば、作文は随想です。つまりは、自分の体験に基づいて感じたこと考えたことを記した文章ということです。ですから、往々にして主観的な思いの強いものになってしまいますし、それはそれで問題はありません。

論文に必要なもの、すなわち作文との決定的な相違点は何かと言えばそれは「客観性」です。多くの人を読んでなるほどと納得できる内容になっている点です。客観性を高めるために必要なものは何でしょう？それは「例」です。抽象的な自分の思考を支えるための具体的な例が必要です。“論より証拠”ということです。といってもここまでの話は抽象的ですね。以下に具体例をあげます。

人間は常に新しい技術開発することで生活の安定をはかり、より「人間的な」生活を創造してきた。例えば、我々の祖先は季節に応じて獲物や作物を追い求める生活から定住化に進む過程で、安定した食糧を確保するために、稲作の技術などを生み出した。またものの運搬や場所の移動に費やされる労働力を軽減したいという願いは、蒸気機関の発明や様々な交通機関の発達を促した。

傍線部が抽象的な筆者の考え、「論」です。「例えば」以下にある「稲作の技術」「発明・発達」が例です。重要なことはこの例が自分の持っている知識だということです。自分の知識から具体的な例を引き出して書く論文だから「小論文」という言い方をするので。ですから小論文を書くためにはたくさんの知識、経験がなければ

はいけません。

最後に客観性を高めるためのポイントをいくつか。新聞、ニュースで知った事実を利用する場合は「～だといわれている」、ほぼ間違いはないけれど、ちょっと不安なものについては「～であろう」、引用したものはカギ括弧でくくる、といった点に注意してください。つまり論文では客観性に加えて、自分の論と他人の論とを厳しく区別することが大切なのです。



作文と小論文の違いは、はっきりしましたか？

2月3月のスケジュール確認

- 2月4日（土） 午後1時30分～ 講義室A
チームワーク形成研修（校内）
チームワークコンセンサス研修
- 3月4日（土） 午後1時30分～
生徒・保護者会 大会議室
校長
・TM担当 来年度の行事計画
個別成果資料
・ベネッセコーポレーション
スアディサポートとClassi
・駿台予備校（予定）
医学部入試結果分析と対応
- 3月14日（火） 東京都立北特別支援学校
東京大学医学部附属病院内
こだま分教室訪問予定（校外）
- 3月未定 医学部医学科合格体験談講演

*4月から新しい1年生が
TMに加わります。

